

苗穂駅周辺地区

地区の概要

都心から東へ約2kmに位置する苗穂駅周辺地区は、明治初期からビール工場などの官営工場が並ぶ商工業の街として栄えました。しかし、人口減少や商店街の衰退、老朽家屋の密集といった課題を抱え、居住環境の改善が求められてきました。

こうした中、昭和56年の「豊平川畔地域左岸整備基本構想」策定を機に、市街地再開発や地区計画による土地の高度利用と、魅力ある空間形成が進められました。

また、JR線による地域分断の解消を目指し、平成10年には「苗穂駅周辺まちづくり協議会」が発足しました。イベント開催などの身近な活動から、再開発に関する勉強会まで幅広く取り組まれたことが、まちづくりの大きな原動力となりました。

平成30年には駅舎の移転・橋上化により待望の新駅が開業し、南北分断解消が実現しました。その後も、駅舎の移転・橋上化と連携した駅周辺の再開発事業等により、住宅や商業、医療、業務機能などの整備が進み、地域の利便性と魅力はさらに向上しています。



地区の見どころ

苗穂の工場・記念館群

サッポロビール博物館やJR苗穂工場の鉄道技術館等は「苗穂の工場・記念館群」として平成16年に北海道遺産に選定されています。



サッポロビール博物館

⑥北4東6周辺地区

第一種市街地再開発事業

(平成27～令和4年度 組合施行)
居住、医療・福祉、スポーツなどの機能集積を図り都心にふさわしいにぎわいを創出

⑦北3東11周辺地区

第一種市街地再開発事業

(平成30～令和4年度 組合施行)
駅前になぎわいにぎわいの創出
住宅や商業、医療、業務機能などを整備



7

⑧苗穂駅北口西地区

優良建築物等整備事業

(平成30～令和2年度 市街地環境形成タイプ)
多様な機能立地の促進を行う快適な歩行空間を創出

地区の見どころ

旧永山武四郎邸

明治の前半に建てられた和洋折衷の建築様式が特徴で、北海道の有形文化財のほか、「開拓時代の洋風建築」として北海道遺産にも選ばれています。



旧永山邸

①ビール工場跡地地区

優良建築物等整備事業

(平成元～4年度 高度化更新型)
歴史を刻む赤レンガ建築物と光あふれるアトリウムの融合

②旧永山邸周辺地区

第一種市街地再開発事業

(昭和61～63年度 公社施行)
先人のロマンに触れる旧永山邸の保存と緑豊かな居住環境の創出

③苗穂中央第3地区

第一種市街地再開発事業

(平成3～9年度 組合施行)
苗穂地区にそびえるランドマークとして大規模コミュニティを創造

④苗穂中央第2地区

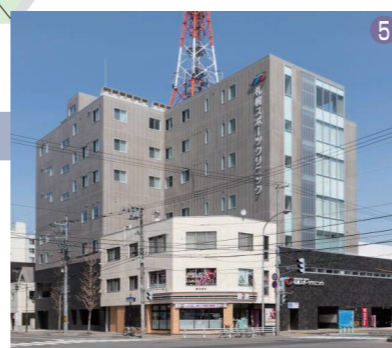
第一種市街地再開発事業

(昭和60～62年度 公社施行)
ゆとり・潤いのある居住環境の創出と水道局庁舎との一体的整備

⑤大通東4地区

優良建築物等整備事業

(平成26～平成27年度 市街地環境形成タイプ)
地下鉄駅周辺になぎわい土地利用および歩行者ネットワークの強化



5